中学１年　数学１

解説シート

1　次の計算をしなさい

①　$5\times4-7$　　　②　$5\times(4-7)$

③　$2\times(-5^2)$　　　④　$2\times(-5)^2$

$2\times(-5\times5)$　　　$2\times(-5)\times(-5)$

①	13	②	−15
③	−50	④	50

2　次の（１）から（５）までの各問いに答えなさい。

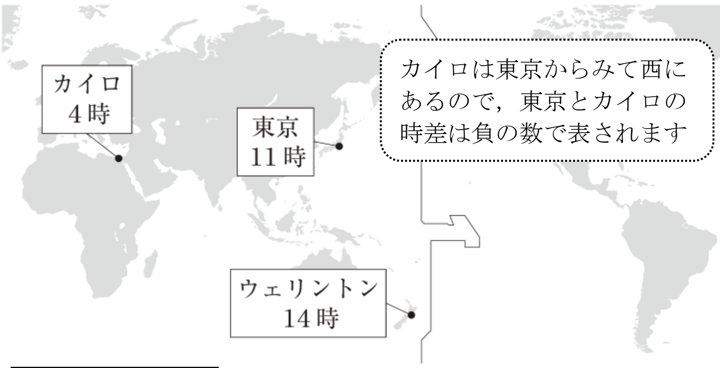
（１）　54 を素因数分解しなさい。

自然数を素数だけの積で表すことを素因数分解といいます。

2×3^3

（２）　右の図は，東京が 11 時のときのカイロとウェリントンの時刻を示しています。正の数と負の数を用いると，東京の時刻を基準にして，東京から日付変更線までの東にある都市との時差は正の数で，西にある都市との時差は負の数で表すことができます。例えば，ウェリントンは東京からみて東にあるので，東京とウェリントンの時差は正の数を用いて +3 時間と表すことができます。

東京の時刻を基準にして，東京とカイロの時差を表しなさい。



日付変更線

−7　時間

（３）　$(5x+7)-5(x-1)$ を計算しなさい。

途中式は，$5x+7-5x+5$ です。

12

（４）　1000 円で a 円の品物が買えるという関係を表している不等式をね次の（ア），（イ），（ウ）から選びなさい。

（ア）1000＜a　　（イ）1000－a＜0　　（ウ）1000－a≧0

ウ

（５）　一次方程式 $\dfrac{x-1}{3}=2$ を解きなさい。

$x-1=2\times3$ と変形できます。

$x=7$

3　次の**問題**と**考え方**を読んで，下の $\boxed{}$ に当てはまる言葉を書きなさい。

問　題

長いすに何人かの生徒が座るのに，生徒が２人ずつ座ると２６人が座れなくなります。また，３人ずつ座ると長いすが５脚余ります。

長いすが何脚あるか求めるために，長いすが x 脚あるとして，方程式をつくりなさい。

考え方

方程式をつくるために，x を使って，上の問題の数量のうち，$\boxed{}$ を２通りの式で表すと，$2x+26$ と $3(x-5)$ になります。

この２つの式が等しいので，方程式は $2x+26=3(x-5)$ です。

一次方程式をつくって問題を解決するためには，数量の関係をとらえて，２通りに表せる数量に着目しましょう。この問題で，生徒の人数を x を使って表すと，

- 生徒が２人ずつ座ると２６人が座れない　→$2x+26$
- ３人ずつ座ると長いすが５脚余る　→$3(x-5)$

生徒の人数

中学１年　数学２

解説シート

1　下の表は，ある運送会社の書類の宅配サービスの料金表です。

重量	100g まで	250 g まで	500g まで	1 kgまで
料金	150 円	190 円	270 円	320 円

このサービスで扱える書類の重量は，1 kgまでです。

このとき，1kg までの書類の重量と料金について，「重量を決めると，それにともなって料金がただ１つ決まる」という関係があります。

下線部を，次のように表すとき，①と②に当てはまる言葉を書きなさい。

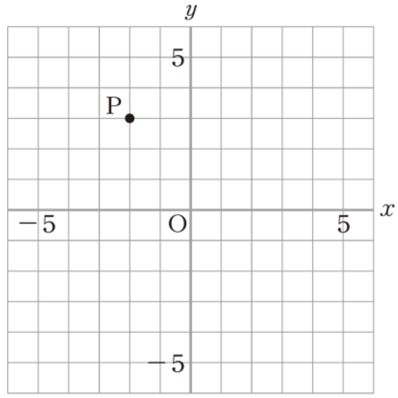
①は②の関数である。

ともなって変わる２つの変数 x，y があって，**x の値を決めると，それに対応して y の値がただ１つ決まる**とき，「y は x の関数である」といいます。

①	②
料金	重量

2　次の（１），（２）の各問いに答えなさい。

（１）　右の図において，点 P の座標を書きなさい。



（－２，３）

（２）　y が x に比例し，$x=2$ のとき $y=6$ です。y を x の式で表しなさい。

$y=3x$

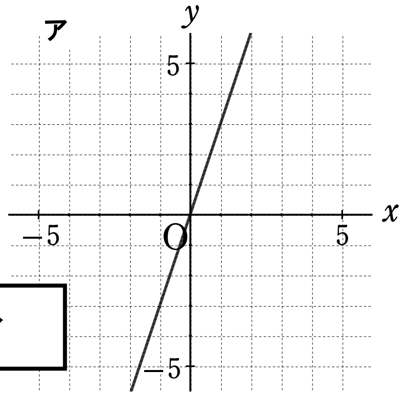
y が x の関数で，$y=ax$（a は定数）で表されるとき，「y は x に比例する」といいます。

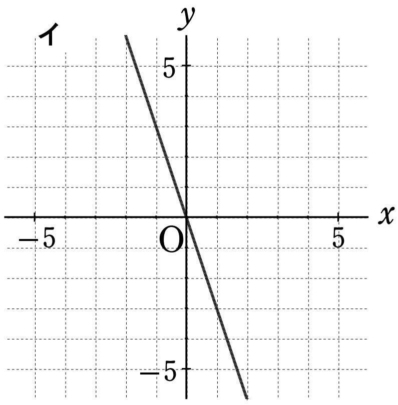
3　下の表は，y が x に比例する関係を表しています。
次の（１），（２）の各問いに答えなさい。

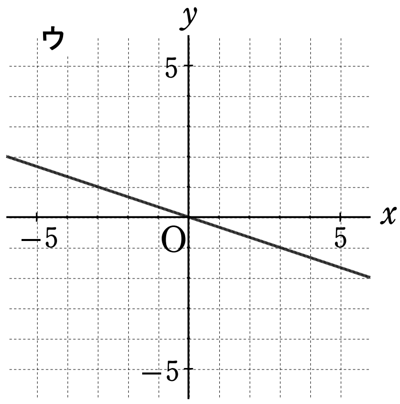
x	…	1	2	3	4	…
y	…	−3	−6	−9	−12	…

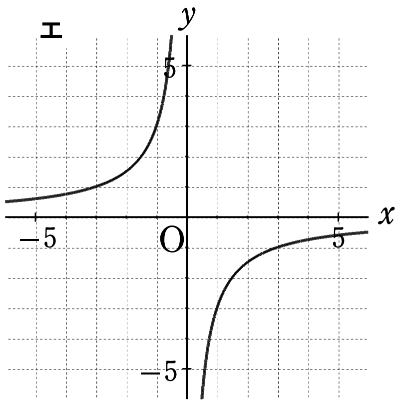
（１）　次の**ア**から**エ**までの中に，上の表の x と y の関係を表すグラフがあります。正しいものを１つ選びなさい。

イ









（２）　上の表の比例の関係について，x の値が -5 のときの y の値を求めなさい。

表から y は x の式として，$y=-3x$ と表されることがわかります。この式に，$x=-5$ を代入します。

$y=15$

中学１年　数学３

解説シート

y が x の関数で，$y=\dfrac{a}{x}$（a は定数）で表されるとき，「y は x に反比例する」といい，次のことが成り立ちます。

- x の値を2倍，3倍，4倍，…とすると，y の値は $\dfrac{1}{2}$ 倍，$\dfrac{1}{3}$ 倍，$\dfrac{1}{4}$ 倍，…となっていく。
- 対応する x と y の値の積 xy は一定で比例定数 a に等しい。

1　y が x に反比例するものを，下の**ア**から**エ**までの中からすべて選びなさい。

ア　面積 60cm² の長方形で，縦の長さが x cm のときの横の長さ y cm

イ　100 ページの本を，x ページ読んだときの残りのページ数 y ページ

ウ　１冊 80 円のノートを x 冊買ったときの代金 y 円

エ　6m のリボンを x 人で同じ長さに分けたときの１人分の長さ y m

オ　x m のリボンを 6 人で同じ長さに分けたときの１人分の長さ y m

ア，エ

ア　$y=\dfrac{60}{x}$

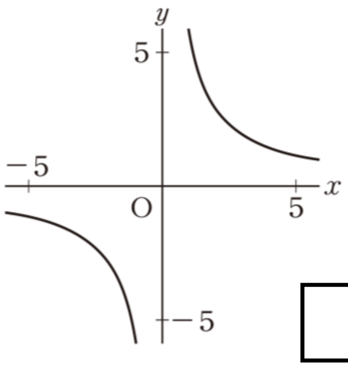
イ　$y=100-x$

ウ　$y=80x$

エ　$y=\dfrac{6}{x}$

オ　$y=\dfrac{x}{6}$

2　下の図の曲線は，反比例のグラフを表しています。このグラフについて，x と y の関係を示した表が，右の**ア**から**エ**までの中にあります。正しいものを１つ選びなさい。



ア

ア

x	…	−3	−2	−1	0	1	2	3	…
y	…	−2	−3	−6	╳	6	3	2	…

イ

x	…	−3	−2	−1	0	1	2	3	…
y	…	−2	−4	−6	╳	6	4	2	…

ウ

x	…	−3	−2	−1	0	1	2	3	…
y	…	−1.5	−3	−6	╳	6	3	1.5	…

エ

x	…	−3	−2	−1	0	1	2	3	…
y	…	2	3	6	╳	−6	−3	−2	…

3　右の表は，y が x に反比例する関係を表したものです。

次の（１）から（３）までの各問いに答えなさい。

x	…	−2	−1	0	1	2	3	…
y	…	6	12	╳	−12	−6	$\boxed{}$	…

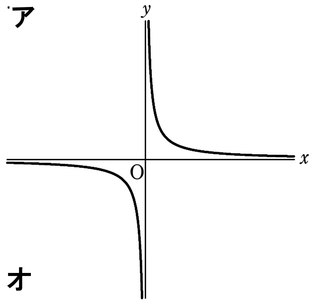
（１）　上の表の $\boxed{}$ に当てはまる数を求めなさい。

−4

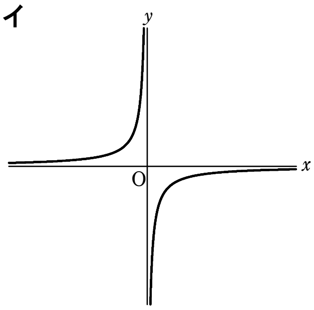
（２）　次の**ア**から**オ**の中に，上の表の x，y の関係を表すグラフがあります。正しいものを１つ選びなさい。

イ

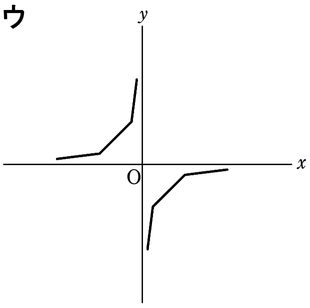
ア



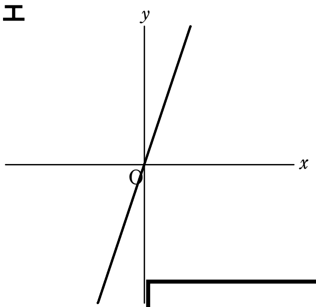
イ



ウ

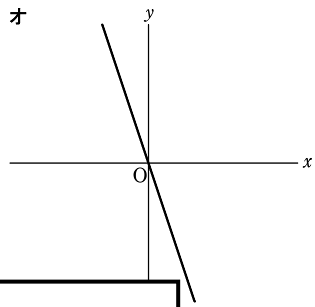


エ



オ

ォ



（３）　上の表の x と y の関係を式に表しなさい。

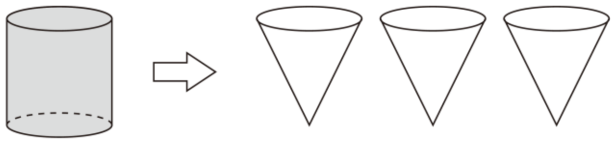
$$y=-\frac{12}{x}$$

中学１年　数学４

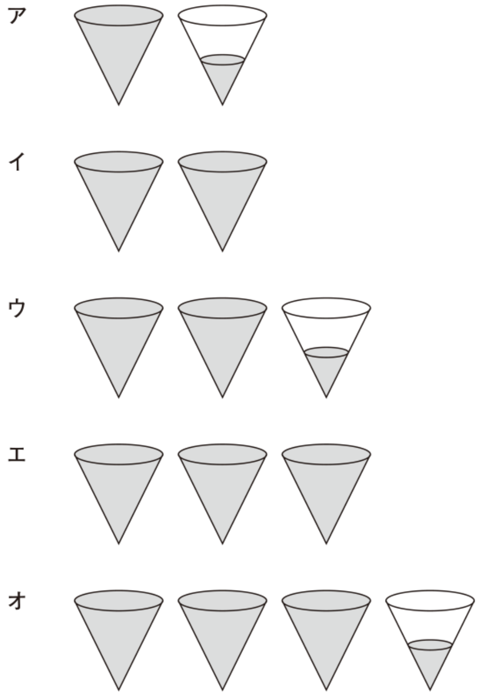
解説シート

1　次の（１），（２）の各問いに答えなさい。

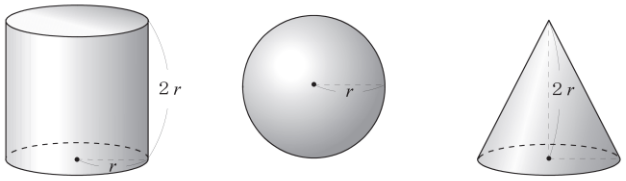
（１）　下の図は，円柱，円錐の形をした容器です。それぞれの容器の底面は合同な円で，高さは等しいことがわかっています。 この円柱の容器いっぱいに入れた水を円錐の容器に移します。



このとき，右の**ア**から**オ**までの中に，円柱の容器に入っていた水と同じ量の水を表している図があります。正しいものを１つ選びなさい。



$\boxed{エ}$



$V=\pi r^2\times 2r$

$=2\pi r^3$

$=\frac{2}{3}\pi r^3\times 3$

$V=\frac{4}{3}\pi r^3$

$=\frac{2}{3}\pi r^3\times 2$

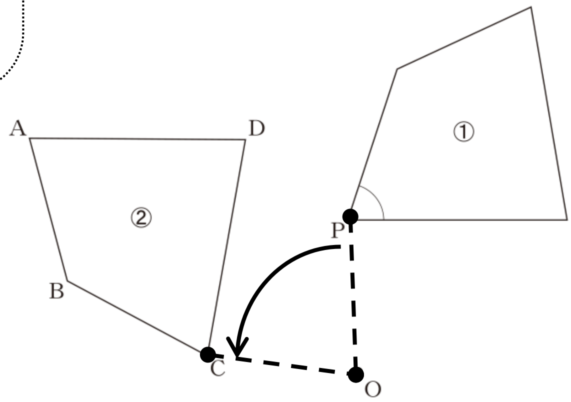
$V=\frac{1}{3}\pi r^2\times 2r$

$=\frac{2}{3}\pi r^3$

$=\frac{2}{3}\pi r^3\times 1$

（２）　右の図で，四角形②は，四角形①を点 O を中心として反時計回りに80°だけ回転移動したものです。

四角形①の∠P に対応する四角形②の角を，∠A，∠B，∠C，∠D の中から１つ選びなさい。



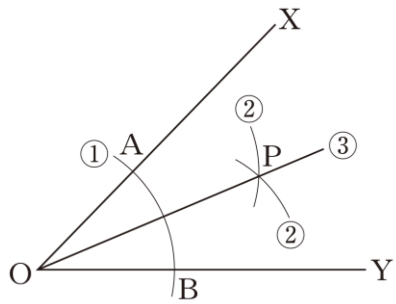
$\boxed{\angle C}$

2　∠XOY の二等分線を，次の方法で作図しました。

この方法で∠XOY の二等分線が作図できるのは，右の図で点 A，O，B，P の順に結んでできる四角形 AOBP がある性質をもつ図形だからです。その図形が，下の**ア**から**オ**までの中にあります。正しいものを１つ選びなさい。

作図の方法

① 点 O を中心として適当な半径の円をかき，辺 OX，辺 OY との交点をそれぞれ A，B とする。
② ２点 A，B をそれぞれ中心として，等しい半径の円をかき，その交点を P とする。
③ 直線 OP をひく。



ア　直線 OP を対称の軸とする線対称な図形
イ　直線 OX を対称の軸とする線対称な図形
ウ　点 A と点 B を通る直線を対称の軸とする線対称な図形
エ　点 O を対称の中心とする点対称な図形
オ　点 A と点 B を通る直線と直線 OP の交点を対称の中心とする点対称な図形

作図の方法については，図形の性質と関連付けて，その意味を理解しましょう。

$\boxed{ア}$

中学１年　数学５

解説シート

1　ある中学校の３年生に対して，通学時間を調査しました。右の度数分布表は，その結果をまとめたものです。
　次の（１）から（４）までの各問いに答えなさい。

３年生の通学時間

階級（分）	度数（人）
以上　未満 0～10	6
10～20	9
20～30	15
30～40	18
40～50	11
50～60	$\boxed{}$
合計	60

（１）50分以上60分未満の階級の人数を求めなさい。

1　人

（２）10 分以上 20 分未満の階級の相対度数を求めなさい。

0.15

相対度数＝階級の度数÷度数の合計で求めます。

（３）通学時間が短い方から数えて 20 番目の生徒は，どの階級に入っているか答えなさい。

最初の階級から，その階級までの度数の合計を**累積度数**といいます。

20 分以上 30 分未満の階級

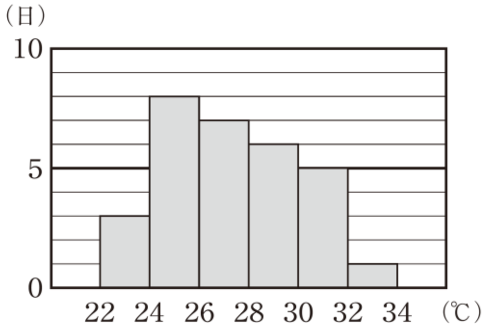
（４）通学時間が 20 分未満の生徒は全体の何％か求めなさい。

25 ％

最初の階級から，その階級までの相対度数の合計を，**累積相対度数**といいます。
6÷60＝0.1　9÷60＝0.15　0.1＋0.15＝0.25　0.25×100＝25％

2　右の図は，ある市の平成 29 年 6 月 1 日から 30 日までについて，日ごとの最高気温の記録をヒストグラムに表したものです。例えば，最高気温が 24℃以上 26℃未満の日が 8 日あったことがわかります。
　次の（１），（２）の各問いに答えなさい。

最高気温の分布



（１）最高気温が 30℃以上の日は何日ありましたか。
　最高気温が 30℃以上の日数を求めなさい。

６日

（２） 22℃以上 24℃未満の階級の相対度数を求めなさい。

0.1

資料の日数は30日で，22℃以上24℃未満の階級の日数は3日です。

3　Ａ中学校とＢ中学校の３年生に対して，通学時間を調査しました。右の度数分布表は，その結果を学校ごとにまとめたものです。
　この度数分布表をもとに，全体の人数に対する通学時間が 50 分以上の人の割合は，Ａ中学校とＢ中学校でどちらが大きいかを調べます。その方法について，説明しなさい。**相対度数**という言葉を用いて，説明しなさい。

階級（分）	Ａ中学校 度数（人）	Ｂ中学校 度数（人）
以上 未満 0 ～ 10	4	1
10 ～ 20	9	2
20 ～ 30	16	8
30 ～ 40	23	14
40 ～ 50	22	17
50 ～ 60	16	12
60 ～ 70	10	6
合計	100	60

［説明］（正答例）
通学時間が 50 分以上の階級それぞれについて，Ａ中学校，Ｂ中学校の相対度数を求め，その合計の大小を比較する。

Ａ中学校とＢ中学校では，全体の人数が異なるため，単純に度数の合計を比較するのではなく，相対度数を使います。
「相対度数」の意味を理解し，説明の場面でも適切に使えるようにしましょう。

解説シート

中学１年　数学６

第一中学校の第３学年では，「学級対抗ドッヂボール大会」を開催します。実行委員の海斗さんと葉月さんは，右のように大会の計画を立てています。

次の（１）から（３）までの問いに答えなさい。

大会の計画

←10分→	←60分→					←10分→
開会式	第一試合 １組対２組	休憩	第二試合 ２組対３組	休憩	第三試合 １組対３組	閉会式

○　３学級の総当たり戦で，全部で３試合行う。

○　１試合の時間はすべて同じ長さとする。

○　試合と試合の間には準備を含む休憩をとり，休憩の時間は同じ長さとする。

○　第一試合が始まってから第三試合が終わるまでは60分とする。

（１）１試合の時間を16分とするとき，１回の休憩は何分か求めなさい。

６分

（２）葉月さんは，大会を盛り上げるために，先生チームとの試合を入れることを提案しています。

葉月さんの提案を取り入れたとき，

１試合の時間をｘ分として，ｘの値を求めるための方程式をつくりなさい。ただし，つくった方程式を解く必要はありません。

葉月さんの提案

○　第四試合として，優勝した学級と先生チームで試合を行う。

○　試合と試合の間には４分の休憩をとる。

○　第一試合が始まってから第四試合が終わるまでは60分とし，１試合の時間はすべて同じ長さとする。

（例）４ｘ＋４×３＝60

４ｘ＋12＝60 でも○

（３）海斗さんは，先生チームとの試合ではなく，各学級が応援を披露して競う「応援合戦」を入れることを提案しています。海斗さんは，応援合戦を２回，同じ長さで行うことを考え，新たに次の**進行表**を作りました。

進行表

←10分→	←60分→								←10分→
開会式	第一試合 １組対２組	休憩	応援合戦	休憩	第二試合 ２組対３組	休憩	応援合戦	休憩	第三試合 １組対３組	閉会式

進行表から，１試合の時間をａ分，１回の休憩をｂ分，１回の応援合戦をｃ分とすると，３ａ＋４ｂ＋２ｃ＝60 という式ができます。これをもとに，二人は話し合っています。

１回の休憩を５分，１回の応援合戦を６分とするとき，１試合の時間を10分とることはできますか。下の**ア**，**イ**の中から正しいものを１つ選び，それが正しいことの理由を，３ａ＋４ｂ＋２ｃ＝60 の式をもとに説明しなさい。

葉月さん「１回の休憩を５分，１回の応援合戦を６分としよう。このとき，１試合10分はとれるかな。」

海斗さん「$3a+4b+2c=60$ という式を利用して考えられないかな。」

葉月さん「$b=5$，$c=6$ になるから，a がわかりそうだね。」

ア　１試合の時間を10分とることとはできる。

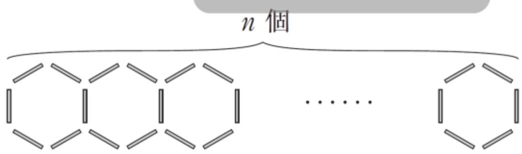
イ　１試合の時間を10分とることはできない。

「根拠（～たから）」と「成り立つ事柄」の２つを書きましょう。

記号	説明
イ	（例１）３ａ＋４ｂ＋２ｃ＝60の式に，ｂ＝５，ｃ＝６を代入すると ３ａ＋32＝60　これを解くと，ａ＝２８／３　これは10よりちいさいので，１試合の時間を10分とすることはできない。 （例２）３ａ＋４ｂ＋２ｃに，ａ＝10，ｂ＝５，ｃ＝６を代入すると， ３×10＋４×５＋２×６＝62　これは60より大きいので，１試合の時間を10分とすることはできない。

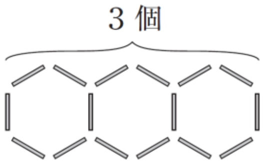
解説シート

中学１年　数学７



右の図のようにストローを並べて，六角形をｎ個つくるのに必要なストローの本数を考えます。

例えば，六角形を３個つくるのに必要なストローは16 本です。



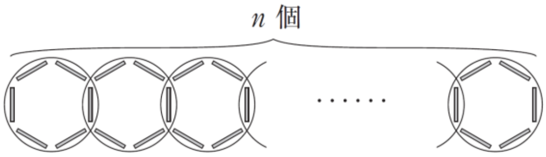
次の（１）から（３）までの問いに答えなさい。

（１）六角形を５個つくるのに必要なストローの本数を求めなさい。

２６本

（２）**図１**のようにストローを囲むと，六角形をｎ個つくるのに必要なストローの本数は，次のように説明できます。

図１



説明

ストローを**図１**のように囲むと，１つの囲みにストローが６本ある。その囲みがｎ個あるので，この囲みで数えたストローの本数は６本になる。このとき，２回数えているストローが
□本あるので，必要なストローの本数は６ｎ本より□本少ない。
したがって、六角形をｎ個つくるのに必要なストローの本数を表す式は，
６ｎ－（□）になる。

上の**説明**の□には，同じ式が当てはまります。□に当てはまる式を，ｎを用いて表しなさい。

ｎ－１

（３）**図２**のように囲み方を変えてみると，六角形をｎ個つくるのに必要なストローの本数は，
６＋５（ｎ－
を表す式が

次の（ａ），（ｂ），（ｃ）について書きましょう。
（ａ）囲まれていないストローの本数が６本あること。
（ｂ）１つの囲みにストローが５本あり，その囲みが（ｎ－１）個あること。
（ｃ）必要なストローの本数は，囲まれているストローの総数と囲まれていないストローの本数の和であること。

説明

ストローを**図２**のように囲むと，

（例）１つの囲みにストローが５本ある。その囲みが（ｎ－１）個あるので，この囲みで数えたストローの本数は５（ｎ－１）本になる。このとき，左端に囲まれていないストローが６本あるので，必要なストローの本数は５（ｎ－１）本より６本多い。

したがって，六角形をｎ個つくるのに必要なストローの本数を表す式は，
６＋５（ｎ－１）になる。

解説シート

1　下のアからオまでの中に，y が x の関数であるものがあります。 正しいものを１つ選びなさい。

ア 生徒数が x 人の学校の校庭の面積 y ㎡　　**イ** 底面積が x cm² の直方体の体積 y cm³

ウ 身長が x cm の人の体重 y kg　　**エ** 自然数 x の倍数 y

オ 整数 x の絶対値 y

オ

ともなって変わる２つの変数 x，y があって，**x の値を決めると，それに対応して y の値がただ１つ決まる**とき，「y は x の関数である」といいます。

2　大地さんの学校では，体育祭で全校生徒 320 人が一列に並びウェーブをします。実行委員の大地さんは，全校生徒がウェーブをするのにかかる時間を調べるために，学級の生徒に協力してもらい，右の**ウェーブのやり方**で，実際に時間を計りました。

ウェーブのやり方

隣りの人が立ち始めたら，自分も立つ。そのとき，腕を高く上げる。きちんと立ったら座る。

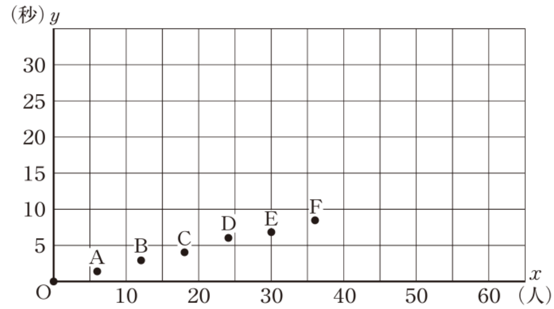
スタートの合図の瞬間を０秒とし，ウェーブをする人数 x 人と，最後の人が立ち始めるまでにかかる時間 y 秒を，人数を増やしながら調べました。その結果を次のように表にまとめ，下のグラフに表しました。

ウェーブをする人数とかかる時間

人数 x（人）	0	6	12	18	24	30	36
時間 y（秒）	0	1.4	2.9	4.1	6.0	6.8	8.4

次の（１），（２）の各問いに答えなさい。

人数と時間のグラフ



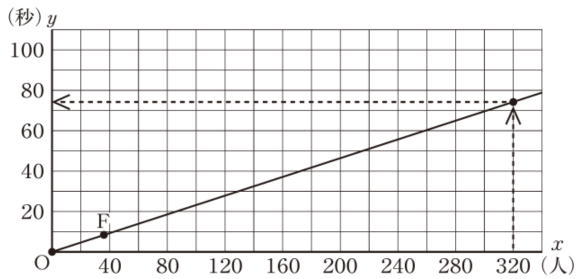
（３）　**人数と時間のグラフ**において，人数が 24 人のときに 6.0 秒かかったことを表す点はどれですか。点Ａから点Ｆまでの中から記号を１つ書きなさい。

D

人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点の座標は(24, 6.0)です。

（４）　大地さんは，右のようにして，全校生徒 320 人がウェーブをするのにかかる時間を求めました。**大地さんの求め方**では，**人数と時間のグラフ**で，原点Ｏから点Ｆまでの点が原点を通る直線上にあり，人数が増えてもすべての点が同じ直線上にあると考えています。このように考えてよいのは，２つの数量の間に，ある関係があるとみているからです。どの数量の間に，どのような関係があるとみているか書きなさい。

大地さんの求め方



原点Ｏと点Ｆを通る直線をひいて，x = 320 のときの y 座標を読むと，およそ 75 秒になる。

［説明］
（正答例１）ウェーブをするのにかかる時間は，ウェーブする人数に比例する。
（正答例２）ウェーブをする人数とウェーブをするのにかかる時間の間には，比例の関係がある。

あることがらを説明する場合は，「～は，～である。」というように，主部（前提あるいは根拠に当たる部分）と，述部（結論に当たる部分）の両方を使って，明確に表現できるようにしましょう。

解説シート

中学１年　数学９

体育委員会は，全校生徒の体力向上のために，１週間で 420 分（１日あたり 60 分）運動することを目標にしようと考えています。そこで，体育委員会では，全校生徒の１週間の総運動時間を調べるアンケートを実施しました。体育委員の若菜さんは，全校生徒のうち女子の結果を，右の度数分布表にまとめました。

次の（１）から（３）までの各問いに答えなさい。

１週間の総運動時間の度数分布表（女子）

階級（分） 以上　未満	度数（人）
0 ～ 300	55
300 ～ 600	12
600 ～ 900	26
900 ～ 1200	29
1200 ～ 1500	15
1500 ～ 1800	6
1800 ～ 2100	2
合計	145

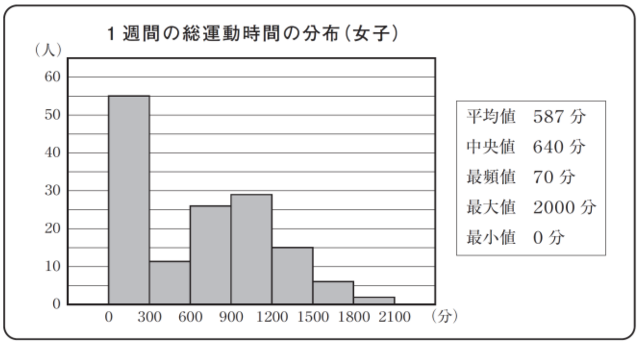
（１）**１週間の総運動時間の度数分布表（女子）**において，420 分が含まれる階級の度数を書きなさい。

１２　人

（２）若菜さんは，女子の１週間の総運動時間について調べたことを，右のようにまとめました。

若菜さんの１週間の総運動時間は670分です。全校生徒の女子の中で，若菜さんの１週間の総運動時間より長い人が多いのか，短い人が多いのかは，670 分をある値と比べることでわかります。その値が，下の**ア**から**オ**までの中にあります。それを１つ選びなさい。

若菜さんが調べたこと



ア　平均値　　**イ**　中央値
ウ　最頻値　　**エ**　最大値　　**オ**　最小値

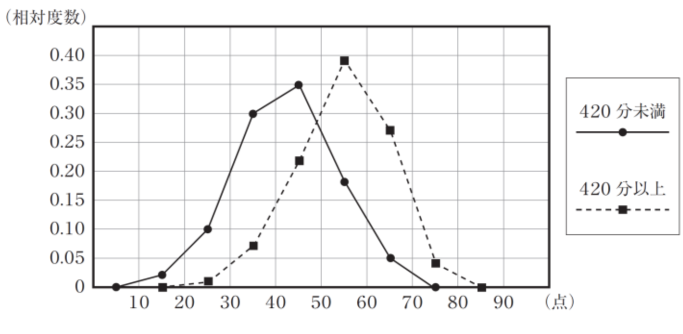
イ

（３）若菜さんは，１週間の総運動時間が 420 分未満と 420 分以上の女子では，体力テストの合計点に違いがあるのではないかと考えました。そこで，420 分未満と 420 分以上の女子に分けて，体力テストの合計点をまとめた度数分布表をもとに，相対度数を求め，相対度数の度数分布多角形（度数折れ線）に表しました。

体力テストの合計点の度数分布表

階級（点） 以上　未満	420 分未満 度数（人）	420 分未満 相対度数	420 分以上 度数（人）	420 分以上 相対度数
10 ～ 20	1	0.02	0	0.00
20 ～ 30	6	0.10	1	0.01
30 ～ 40	18	0.30	6	0.07
40 ～ 50	21	0.35	19	0.22
50 ～ 60	11	0.18	33	0.39
60 ～ 70	3	0.05	23	0.27
70 ～ 80	0	0.00	3	0.04
合計	60	1.00	85	1.00

若菜さんが作った度数分布多角形



若菜さんが作った度数分布多角形から，「１週間の総運動時間が 420 分以上の女子は，420 分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を，**若菜さんが作った度数分布多角形の２つの度数分布多角形の特徴を比較して**説明しなさい。

根拠と，成り立つ事柄の両方を書きましょう。

説明
（例）度数分布多角形が 420 分未満よりも 420 分以上の方が右側にあるから，１週間の総運動時間が 420 分以上の方が体力テストの合計点が高い。
（例）２つの度数分布多角形が同じような形で，420 分未満の山の頂点よりも 420 分以上の山の頂点が右側にあるから，420 分以上の方が女子の体力テストの合計点が高い傾向にある。

中学１年　数学10

解説シート

あるボウリング場では，貸し出し用の靴をすべて新しいものに買い換えようとしています。そのために，貸し出し用の靴の総数や，過去１か月間に靴が貸し出された回数について調べました。

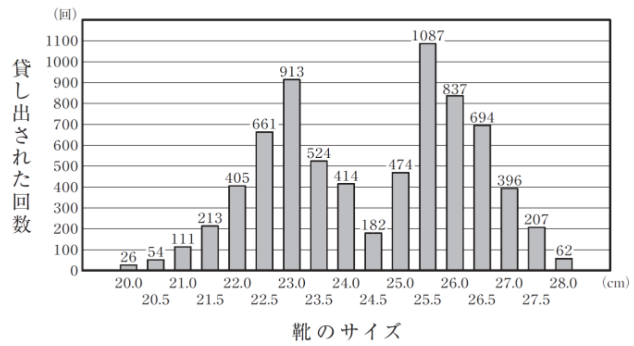
調べたこと

○ 貸し出し用の靴の総数　200 足

○ 貸し出された回数の合計　7260 回

○ 貸し出された靴のサイズの平均値　24.5 cm

○ 靴のサイズごとの貸し出された回数のグラフ



上のグラフから，例えば，23.5 cmの靴は 524 回貸し出されたことがわかります。
調べたことをもとに，どのサイズの靴を何足買うかを考えます。
次の（１），（２）の各問いに答えなさい。

（１）「貸し出された靴のサイズの平均値である 24.5 cmの靴を最も多く買う」という考えは適切ではありません。その理由を，**調べたこと**のグラフの特徴をもとに説明しなさい。

次の（ａ）と（ｃ）または，（ｂ）と（ｃ）について書きましょう。
（ａ）グラフの山の頂上にあたる靴のサイズは24.5cmではないこと。（根拠）
（ｂ）24.5cmは最頻値でないこと。（根拠）
（ｃ）24.5cmの靴を最も多く買うことは適切でないこと。（成り立つ事柄）

※「根拠」と「成り立つ事柄」の両方を書くようにしましょう。

説明

（例１）グラフの山の頂上にあたる靴のサイズは 24.5 cmではないので，24.5 cmの靴を最も多く買うことは適切でない。

(例２)24.5 cmは最頻値ではないので,24.5 cmの靴を最も多く買うことは適切でない。

（２）25.5 cmの靴を何足買うかを考えるために，25.5 cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求めます。その相対度数を求める式を書きなさい。ただし,実際に相対度数を求める必要はありません。

1087÷7260